



濃度のキャリブレーションが行われたプリン
ターのキャリブレーションヘルプ

© 2018 Electronics For Imaging, Inc. 本書に記載されている情報は、本製品の『法律上の注意』の対象となります。

2018年11月21日

目次

キャリブレーター	5
キャリブレーションのワークフロー	5
タスクの選択	6
サーバーのキャリブレーションの作成	6
G7 キャリブレーションのワークフロー	7
キャリブレーションページを印刷する	8
分光測色計を使用してパッチを測定する	9
分光測色計のキャリブレーション	9
キャリブレーションページの測定	10
キャリブレーション設定のカラー出力プロファイルを作成する	10
測定結果の表示	11
テストページを印刷する	12
キャリブレーターテストページ	12
測定データをエクスポートする	12
測定データのリセット	13
モノクロプリンターの測定データをリセットする	13
カラープリンターの測定データをリセットする	13
キャリブレーター的环境設定	14
キャリブレーション状況 (有効期限)	14
キャリブレーションの時間制限およびジョブの一時停止を設定する	15
キャリブレーション設定	15
キャリブレーション設定の測定データを表示する	16
キャリブレーションターゲットを編集する	16
再キャリブレーション	16
サーバーのキャリブレーションのアップデート	17
測定用のキャリブレーションページを印刷する	17
キャリブレーション結果を表示する	18
キャリブレーションマネージャー	18
キャリブレーション設定を編集する	19
測定結果の表示	19

キャリブレーター

Fiery 搭載プレスおよびプリンターには異なるタイプがあります。レーザーまたはインクジェット、モノクロまたは CMYK または拡張色域、特殊インクの有無などです。キャリブレーターは、各テクノロジーのさまざまなキャリブレーションニーズに対応できるように設計されています。

Command WorkStation Fiery Color Profiler Suite は、システムに最適なバージョンのキャリブレーターを自動的に起動します。キャリブレーターは、接続している Fiery server に合わせて自動的に設定されます。すべてのプレスにすべての機能が必要なわけではありません。たとえば、ほとんどのレーザープリンターでは、個々のインク/トナーの量を制限する必要はありませんが、インクジェットプレスではそれが必要になります。さまざまな素材によるインクの吸収がトナーよりもインクによって大きく異なることが多いからです。

ほとんどの Fiery 搭載モノクロおよび CMYK プレスは、濃度測定値を使用してキャリブレーションされます。CMYK+は通常、L*a*b*測定値を使用してキャリブレーションされます。

キャリブレーターを使用すると、Fiery server で新しいキャリブレーション設定を作成するか、既存のキャリブレーション設定をアップデートできます。

Command WorkStation のキャリブレーターと同様に、キャリブレーターでは、新しいキャリブレーション設定を作成したり、既存の設定の再キャリブレーションを行ったりすることができ、Command WorkStation で使用できないさまざまな測定器に対応しています。

キャリブレーターの主な機能は次の 2 つです。

- **再キャリブレーション** - 新しい測定値でキャリブレーションをアップデートします。多くのプリンターの出力は継続的に変化します。Fiery server でこのような変動を補正するには、補正テーブルを新しい測定値でアップデートする必要があります。
- **キャリブレーションの作成** - 新しいキャリブレーションを作成します。Fiery Color Profiler Suite がインストールおよびライセンスされている場合は、新しいプロファイルを作成できます。このタスクが必要になるのは、特定の印刷条件（トナーセット、ハーフトーン、用紙などの組み合わせ）の場合に既存のキャリブレーションで容認できる出力が得られない場合です。たとえば、グラデーションやトナーの付着が悪いといった場合です。カラー管理で正確なカラーを実現するため、多くの場合、新しいキャリブレーションでは新しいプロファイルが必要です。

ウィンドウの左下にある 2 つのアイコンから、2 つの管理機能にアクセスできます。これらの設定は、個々の Fiery server に固有のもので、それぞれのサーバーに保存されます。次の機能はすべてのユーザーに影響を及ぼすので、Command WorkStation から Fiery システム管理者としてログインした場合にのみ使用できます。

- **キャリブレーター設定** - 個々のプリンターの環境設定に使用します。ここでは、一部のプリンターモデルで使用可能なキャリブレーション前およびキャリブレーション後の設定を指定できます。また、すべてのモデルでは、システム管理者が指定した時間内に適用可能なキャリブレーションが再キャリブレーションされていない場合に、警告を表示したり、さらにはジョブの印刷を防止したりすることもできます。
- **キャリブレーションマネージャー** - Fiery server で使用可能なキャリブレーションを表示するために使用されます。最近アップデートされた測定値やプロパティが表示されます。ユーザーが追加したキャリブレーションは削除でき、その名前も変更できます。

キャリブレーションのワークフロー

Fiery server のキャリブレーションを行うときは、次のタスクを実行します。

- キャリブレーションページを印刷します。このページには、さまざまなカラー（モノクロ印刷の場合はグレーの階調）のパッチが特定のレイアウトで含まれています。このページを使用して、プリンターの現在の出力を測定します。

プリンターの出力は時間の経過と使用状況により変化します。最新のデータを得るには、必ず新しく印刷したキャリブレーションページを測定してください。

- 分光測色計を使用して、キャリブレーションページ上のパッチのカラー値を測定します。
- 測定値を適用します。

測定データは特定のキャリブレーション設定と共に保存されます。このキャリブレーション設定でジョブを印刷する場合は、この測定データを使用して、希望する出力（キャリブレーションターゲット）を生成するのに必要なキャリブレーション調整を計算します。

タスクの選択

キャリブレーターを起動すると、Fiery server 用に新しいキャリブレーション設定を作成するか、既存の設定をアップデートできます。

- 1 キャリブレーターを起動します。
- 2 キャリブレーターを Fiery Color Profiler Suite から起動する場合は、タスクの選択ウィンドウで Fiery サーバーを選択し、リストから Fiery server を選択します。Fiery server がリストにない場合は、プラス記号をクリックして、IP アドレスまたは DNS 名を使用するか検索してサーバーを追加します。
- 3 次のいずれかのタスクを選択します。
 - 再キャリブレート：選択したキャリブレーション設定でキャリブレーションをアップデートします。
 - キャリブレーションの作成：Fiery server 上での新しいカラー印刷条件を定義する新しいキャリブレーションおよびプロファイルを作成します。
- 4 次へをクリックします。

メモ： 選択したタスクを完了するために必要な手順の数は、接続されているプリンターによって異なります。使用しているプリンターのモデルによっては、一部の設定やオプションが使用できない場合もあります。

サーバーのキャリブレーションの作成

キャリブレーションを作成するには、名前などの詳細情報を必要に応じて入力します。

必要な情報は、キャリブレーションを行っている Fiery server やプリンターによって異なります。たとえば、カラーモードフィールドや G7 グレーバランスのチェックボックスが表示されない場合があります。

1 任意のキャリブレーション名を入力します。

メモ：キャリブレーション名は、各サーバーで一意である必要があります。入力する名前は、サーバー上のキャリブレーション設定やプロファイルでまだ使用されていないものにする必要があります。

2 オプション： G7 グレーバランスキャリブレーションターゲットチェックボックスを選択します。

G7 キャリブレーションにより、特定の G7 ターゲット（パッチページ）の測定データを使用して、G7 仕様へのプリンターのカラー出力を調整します。

メモ：G7 グレーバランスを使用するには、Fiery Color Profiler Suite をインストールしライセンスを取得する必要があります。そうしないと、オプションはグレー表示されています。

3 オプション： コメントフィールドに、用紙名、用紙の種類、特別な設定、指示などキャリブレーションの詳細を入力します。

メモ：キャリブレーション設定を作成する際、再キャリブレーションに必要な用紙の種類、使用プリンター、およびすべての特別な指示をジョブ注釈メモフィールドに記録することをお勧めします。

4 オプション： 次へボタンの横にある下矢印を選択し、ファイルから測定値をロードを選択すると、印刷および測定ワークフローを省略できます。このオプションは、プリンターの測定値をすでに持っている上級ユーザー向けのもので、必ず実際のプリンターで印刷して測定することをお勧めします。

5 次へをクリックします。

G7 キャリブレーションのワークフロー

G7 キャリブレーションは、Fiery server プロファイリング測定パッチのキャリブレーションと印刷を行います。

G7 キャリブレーションはキャリブレーションの Fiery server 上部に適用されます。G7 キャリブレーション処理が開始されると、ユーザーは、使用する P2P ターゲットのパッチレイアウトを選択し、それを測定して結果を確認してから、必要に応じて設定の調整を行います。

G7 仕様では、異なるプリンターで一般的でニュートラルな見た目の出力を作成するのに使用できる、標準的なグレースケール曲線が定義されています。G7 キャリブレーションにより、特定の G7 ターゲット（P2P ターゲット）の測定データを使用して、G7 仕様へのプリンターのカラー出力を調整します。Fiery Color Profiler Suite G7 キャリブレーションに使用されるさまざまな P2P ターゲットの印刷と測定をサポートします。任意の対応測定器で測定することができます。

1 パッチレイアウトウィンドウで、使用するパッチセットを次から選択します。

- P2P51（新しいターゲット、オリジナルのリビジョン）
- P2P25Xa（オリジナルのターゲット）
- P2P51 ランダム
- P2P51 ランダム 2-up（カットシートトナープレスに推奨）

メモ：ターゲットで実際に使用される値は同じですが、新しいバージョンは、G7 仕様よりも正確なバージョンです。

2 印刷をクリックしてパッチページを測定します。

3 G7 グレーバランスの測定結果を確認します。

これは G7 キャリブレーションの実行であるため、結果が不合格になることが予想されます。G7 キャリブレーションに必要な NPDC 曲線の計算に使用されるのは、このターゲットの測定結果です。

NPDC (Neutral Print Density Curve) は、CMY (コンポジット) と K (ブラック) に分かれて表示されます。グレーバランスは、 $a*b^*$ としてプロットされます。テーブルでは、加重平均をグリーンで表示するには 1.5 未満にする必要があります。加重最大をグリーンで表示するには 3 未満にする必要があります。

4 補正オプションをクリックして補正曲線を表示し、補正曲線の形成に適用される高度なオプションを表示します。

デフォルトのまま使用するか、変更します。

5 OK をクリックして、NPDC 曲線を適用して P2P パッチページをもう一度印刷します。

6 パッチページを測定し、G7 の結果を表示します。

7 G7 結果が合格の (すべての結果がグリーンで表示される) 場合は、次へをクリックします。結果が失敗の (赤で強調表示されている結果) 場合は、反復をクリックして処理を繰り返します。G7 準拠に合格するために処理を 2~3 回繰り返す必要があることもまれではありません。

キャリブレーションページを印刷する

キャリブレーションページを印刷する場合は、まず、キャリブレーション設定 (カラープリンター)、給紙方法、および測定方法を指定します。

メモ: 分光測色計をキャリブレーションして、キャリブレーションページの測定準備を行います。

- カラープリンターでは、必要なキャリブレーション設定が選択可能でない場合、選択したジョブのキャリブレーションを開始したことが原因である可能性があります。特定のジョブのキャリブレーションを開始すると、そのジョブの印刷に使用されたキャリブレーション設定のみ表示されます。複数のキャリブレーション設定は、通常、用紙種類の混合ジョブで使用されます。

選択したキャリブレーション設定に関連付けられている最新のキャリブレーション測定の推奨用紙および日時が表示されます。キャリブレーション日時が表示されない場合は、(このキャリブレーション設定で) Fiery server がキャリブレーションされていません。

- 給紙方法には、キャリブレーション設定に適した用紙が選択されていることを確認してください。給紙方法の設定で警告が表示された場合は、給紙方法がキャリブレーション設定に適合していない可能性があります。別のキャリブレーション設定を選択するか、別の給紙方法を選択することができます。

用紙に完全に適合するキャリブレーション設定がない場合は、用紙に近い使用可能な設定を使用して試してみることもできます。満足できる結果が得られない場合は、用紙に固有の新しいキャリブレーションおよびプロファイルを作成してください。

1 次のオプションを設定します。

- カラープリンターの場合は、キャリブレーションリストからキャリブレーション設定を選択します。
- 給紙方法リストから目的の給紙方法を選択します。
- 測定方法リストから方法を選択します。

キャリブレーターは、EFI ES-2000 や X-Rite i1Pro2 などの、いくつかのタイプの分光測色計に対応しています。

選択した計器を使用したキャリブレーションに測定オプションが使用できる場合は、設定ボタンが計器の近くに表示されます。

他のタイプの測定器の中にも、場合によっては、Fiery server に接続したプリンターでサポートされているものがあります。

2 続行を クリックしてキャリブレーションページを印刷し、測定に進みます。

分光測色計を使用してパッチを測定する

分光測色計を使用して、手動でカラーパッチを測定します。

分光測色計は、以下の手順で使用します。

- 分光測色計をキャリブレーションします。
- 分光測色計を使用して、キャリブレーションページを測定します。
- 測定値を表示および保存します。

キャリブレーターは、いくつかのタイプの分光測色計に対応しています。以下は、その代表的なものです。

- EFI ES-2000
- EFI ES-6000
- X-Rite i1Pro2

他のタイプの測定器の中にも、場合によっては、Fiery server に接続したプリンターでサポートされているものがあります。

EFI ES-2000 または X-Rite i1Pro2 を ES-1000 互換性モードで使用すると、インジケータランプが作動しない場合があります。分光測色計の状態を示すメッセージが、画面に表示されます。

分光測色計のキャリブレーション

分光測色計のキャリブレーションを行ってキャリブレーションページの測定に備える

ドックの白色タイルと測定器のアパーチャが両方とも汚れていないことを確認してください。白色タイルにカバーがかけられている場合は、必ずカバーを開けてください。

白色点キャリブレーションを使用し、分光測色計の時間の経過に伴う測定の変動を調整します。分光測色計をドックに設置し、サンプルアパーチャがキャリブレーションドックの白色タイルに完全に接触するようにしてください。キャリブレーションドックに正しく配置しないと、分光測色計は正確な測定を行うことができません。

正確なキャリブレーションを行うには、分光測色計のシリアル番号とドックのシリアル番号が一致している必要があります。

- 1 キャリブレーションページを印刷後、分光測色計をキャリブレーションドックに配置します。
- 2 続行をクリックするか、分光測色計のボタンを押します。

分光測色計のキャリブレーションが成功したら、キャリブレーションページの測定に進みます。

キャリブレーションページの測定

分光測色計を使用し、パッチの各ストリップを順番にスキャンすることによって、カラーパッチを測定します。

ストリップのスキャンが正しく行われると、ディスプレイインジケーターが緑に変わり、画面の矢印が次のストリップに移動します。ストリップのスキャンが正常に完了しない場合、ディスプレイインジケーターは赤色で表示され、再試行を指示するメッセージが表示されます。

- 1 正確な測定結果を得るには、キャリブレーションページの下に白い紙を数枚敷くか、使用可能な場合は、板を当てます。
- 2 ストリップが水平で、スキャン方向が左から右になるように、キャリブレーションページの方法を調整します(スキャン方向は、画面またはキャリブレーションページのストリップの端に矢印で示されています)。
- 3 分光測色計をスキャン方向に対して垂直に持ち、サンプルアパーチャの先端を、指定したストリップの開始地点にある白いスペースに配置します。
- 4 分光測色計のボタンを押したままにして、信号(画面上のメッセージまたはビープ音)を待ちます。
- 5 信号を確認したら、ゆっくりとした一定の速さで分光測色計をストリップの上でスライドさせます。
- 6 1つのストリップをスキャンするには、約5秒かかります。
- 7 ストリップ内の全パッチをスキャンし、ストリップの端の白い部分まで来たら、ボタンから指を離します。
- 8 画面に表示した順番で、すべてのストリップに同じ手順を繰り返します。
モノクロプリンターの場合、ストリップは1つです。
- 9 全ストリップのスキャンが完了したら、続行をクリックして、測定結果を確認します。

キャリブレーション設定のカラー出力プロファイルを作成する

カラー出力プロファイルを作成できるようにするには、Fiery Color Profiler Suite がキャリブレーターと同じコンピューターにインストールされ、ライセンスされている必要があります。カスタムキャリブレーション設定を作成する際、分光測色計が測定方法として自動的に選択されます。ColorCal はカラリメトリック測定デバイスを使用しないため、測定方法としては使用できません。

カスタムキャリブレーション設定を作成するには、システム管理者権限が必要です。

新しいキャリブレーション設定を作成した後、出力プロファイルと関連付けます。新しいキャリブレーション設定が既存の出力プロファイルと共に使用されると、用紙の種類によっては満足のいく結果を得られない場合

があります。印刷結果に不満が残る場合は、使用する用紙に基づいたカスタム出力プロファイルを作成してください。

- 既存の出力プロファイルを選択する場合は、使用する用紙に最も近い用紙用の出力プロファイルを選択してください。キャリブレーション設定と同じ名前を持つ、このプロファイルのコピーが作成されます。プロファイルの既存のキャリブレーションターゲット（目標）は、キャリブレーション測定値を使用して計算された新しいターゲットに変わります。新しいキャリブレーション設定は、このプロファイルに関連付けられます。
 - 新しいカスタム出力プロファイルを作成すると、プロファイリング用測定ページが印刷されます。Fiery Color Profiler Suite の Printer Profiler を使用してページを測定します。できあがったプロファイルは Fiery server にインポートされ、新しいキャリブレーション設定と関連付けられます。
- 1 Fiery server 上のプロファイル一覧から出力プロファイルを選択します。
キャリブレーターが出力プロファイルを複製し、その名前を変更します。
 - 2 テスト ページをクリックします。
テストページを印刷すると、キャリブレーション設定を、現在選択されている出力プロファイルのコピーに関連付けるか、新しい出力プロファイルを作成するかを判断するうえで役に立ちます。
 - 3 Fiery Color Profiler Suite がコンピューターにインストールされている場合は、新規プロファイル作成をクリックして、新しいカスタム出力プロファイルを作成します。

測定結果の表示

キャリブレーションページの測定または測定値のインポートが完了したら、測定結果をいつでも適用することができます。測定データを適用（保存）すると、既存のデータは上書きされます。カラーデータの場合は、測定データをグラフに表示して、適用する前にデータを確認することができます。

測定結果は、C、M、Y、K の濃度曲線のセットとして表示されます。同じグラフに、比較のためにキャリブレーションターゲットデータが太線の濃度曲線のセットとして表示され、最大濃度値が数値的に比較されません。

- 1 キャリブレーションマネージャー で、キャリブレーションを選択し、測定値の表示をクリックします。
- 2 曲線を表示または非表示にするには、 該当するラベルの横のアイコンをクリックします。
 - 測定値 - 測定濃度曲線を表示または非表示にします。
 - ターゲット - ターゲット濃度曲線を表示または非表示にします。
 - シアン、マゼンタ、イエロー、またはブラック - 特定のインク/トナーの測定濃度曲線とターゲット濃度曲線を表示または非表示にします。

メモ： Fiery Color Profiler Suite がインストールされライセンスされている場合は、キャリブレーターで G7 キャリブレーションを作成することもできます。G7 キャリブレーションでは、G7 グレーバランスに到達するためにトランスファー曲線が Fiery サーバーのキャリブレーションターゲットに適用されます。キャリブレーションマネージャーは、一時的な G7 のトランスファー曲線ではなく、基本となる標準的な Fiery サーバーのキャリブレーションターゲットを表示します。同様に、標準的な Fiery サーバーのターゲットにとってキャリブレーションされた状態に到達するのに使用されるトランスファー曲線は、キャリブレーションマネージャーでは表示されません。これらのトランスファー曲線は、再キャリブレーションのたびに再計算されるので、一時的なものです。

- 3 オプション：測定値の保存 をクリックして、既存のキャリブレーション設定の測定データを保存します。
- 4 テストページを印刷するには、 **テストページ** をクリックします。
テストページを印刷すると、キャリブレーション設定を既存の出力プロファイルに関連付けるか、新しい出力プロファイルを作成するかを判断するうえで役に立ちます。
- 5 オプション：最新の測定結果で得られた結果が満足のいくものでない場合は、 **デフォルト測定値にリセット** をクリックして、キャリブレーションデータをリセットします。このアクションを実行すると、キャリブレーター測定値の最後のセットが削除されます。このボタンは、再キャリブレーションを実行した場合にのみ表示されます。

テストページを印刷する

カラープリンターの場合は、最新のキャリブレーション測定値のテストページを印刷できます。また、オプションで、キャリブレーション設定の作成時に使用したデフォルト測定値を含む2番目のコピーも印刷できます。

- 1 **Command WorkStation** で、 **サーバー**、 **> デバイスセンター** を順にクリックします。
- 2 一般 で、 **ツール**、続いて **キャリブレーター** をクリックします。
- 3 キャリブレーターで、 **キャリブレーションマネージャー** を開きます。
- 4 キャリブレーションを選択し、 **測定値の表示** をクリックします。
- 5 **テスト ページ** をクリックします。
- 6 **給紙方法** を選択し、 **印刷** をクリックします。

必ず、キャリブレーションと互換性のある用紙のトレイを選択してください。

キャリブレーターテストページ

テストページを使用すると、現在のキャリブレーションとデフォルトのキャリブレーションで生成された出力を検証できます。デフォルトのキャリブレーションは、キャリブレーション設定の作成時に取得された測定データを使用して印刷されます。

テストページに含まれる一部の画像が満足のいく状態に表示されない場合は、キャリブレーション設定に関連付けられている出力プロファイルが用紙設定および印刷設定に適合していない可能性があります。

測定データをエクスポートする

カラープリンターの場合は、特定のキャリブレーション設定の測定データを.cm0 ファイルにエクスポートできます。

- 1 測定データをエクスポートするには、次のいずれかを行います。
 - キャリブレーターで、キャリブレーションマネージャーを開きます。
 - Command WorkStation で、サーバー、> デバイスセンターを順にクリックします。一般で、ツール、続いてキャリブレーターをクリックし、キャリブレーションマネージャーを開きます。
- 2 キャリブレーション設定を選択し、測定値の表示をクリックします。
また、新しいキャリブレーション設定のキャリブレーションページを正常に測定した後で測定値の表示を開くこともできます。
- 3 測定値をエクスポートをクリックします。
- 4 ファイルの場所を参照し、必要に応じてファイル名を変更して、保存をクリックします。

測定データのリセット

特定のキャリブレーション設定の測定データを、デフォルトデータ（工場出荷時のデフォルトデータ、またはカスタムキャリブレーション設定の場合は初回測定データ）にリセットできます。このオプションは、現在の測定データがすでにデフォルトデータに設定されている場合は、使用できません。

モノクロプリンターの測定データをリセットする

モノクロプリンターの場合は、キャリブレーション設定が1つだけあります。

- 1 Command WorkStation で、サーバー、> デバイスセンターを順にクリックします。
- 2 一般で、ツール、続いてキャリブレーターをクリックします。
- 3 キャリブレーターで、キャリブレーションマネージャーを開きます。
- 4 キャリブレーション設定を選択し、測定値の表示をクリックします。
- 5 デフォルト測定値にリセットをクリックします。
- 6 はいをクリックして、操作の確認をします。

カラープリンターの測定データをリセットする

カラープリンターの場合は、キャリブレーション設定が1つ以上存在する可能性があります。

- 1 Command WorkStation で、サーバー、> デバイスセンターを順にクリックします。

- 2 一般で、ツール、続いてキャリブレーションをクリックします。
- 3 キャリブレーションで、キャリブレーションマネージャーを開きます。
- 4 キャリブレーション設定を選択し、測定値の表示をクリックします。
- 5 デフォルト測定値にリセットをクリックします。
- 6 はいをクリックして、操作の確認をします。

キャリブレーションの環境設定

環境設定ウィンドウの設定は、キャリブレーション手順のさまざまな面に影響します。キャリブレーション状況（有効期限）、キャリブレーション時間制限、ジョブの一時停止を設定できます。

メモ：環境設定を変更するには、システム管理者権限が必要です。

- Command WorkStation で、サーバー、> デバイスセンターを順にクリックします。一般で、ツール、続いてキャリブレーションをクリックします。
- キャリブレーションウィンドウで、画面の左下隅にある設定（ギア）アイコンをクリックします。

キャリブレーション状況（有効期限）

キャリブレーションに時間制限を設定した場合、期限切れのキャリブレーションにより Command WorkStation では状況メッセージが表示され、ジョブが一時停止される可能性があります。

Command WorkStation では、ジョブセンターのジョブについて、キャリブレーションが 30 分以内に期限切れになる場合は黄色の警告アイコン/メッセージ、キャリブレーションがすでに期限切れの場合は赤色のエラーアイコン/メッセージが表示されます。

ジョブのキャリブレーションが期限切れの場合にジョブの印刷を試みると、Fiery server はジョブを一時停止させます。ジョブは印刷されず、一時停止の状態です印刷中キューに残ります。

キャリブレーション状況は、ジョブが印刷に送信される前に確認されます。ジョブの印刷中にキャリブレーションが期限切れになった場合は、ジョブは一時停止されません。ジョブの印刷中にキャリブレーションが期限切れにならないように、印刷時間の長いジョブを実行する前にキャリブレーションを行うことをお勧めします。

一時停止状態のジョブを再確認してから、以下のいずれかを行うことができます。

- Fiery server をキャリブレーションして、ジョブのキャリブレーション設定を開きます。キャリブレーションの測定値を更新した後、一時停止状態のジョブを選択し、印刷します。
- 「期限切れ」のキャリブレーション測定データを使用して、ジョブの印刷を続行します。該当ジョブにとって出力の一貫性が重要でない場合は、このオプションを選択してください。

キャリブレーション制限によって影響を受けるジョブのタイプ

Fiery server は、次のジョブに対して、キャリブレーションが期限内であるかどうかを検出できます。

- Fiery PostScript プリンタードライバーまたは Fiery VUE によってアプリケーションから送信されたジョブ。
- インポートされた PDF または TIFF ジョブ。
- 処理済みのジョブ（処理済みの VPS および VIPP ジョブを含む）。

Fiery server ではキャリブレーションが期限内であるか検出できず、次のジョブについてはジョブを一時停止にすることはできません。

- PCL および PJI ジョブ。
- Fiery PostScript プリンタードライバーまたは Fiery VUE を使用せずにアプリケーションから送信されたジョブ。未処理の VPS および VIPP ジョブが含まれます。
- 直接接続で送信されたジョブ。直接接続で送信されたジョブは一時停止にできません。

また Fiery server は、「強制印刷」コマンドを使用して印刷したジョブのキャリブレーション状況を確認しません。「強制印刷」コマンドは、ジョブのミスマッチ（ジョブに必要な用紙や仕上げが使用できない）のために一時停止されたジョブに使用されます。この種類のジョブは強制的に印刷するように設定されているため、キャリブレーション状況は確認できません。

キャリブレーションの時間制限およびジョブの一時停止を設定する

キャリブレーションの時間制限を設定し、キャリブレーションの制限時間が経過した場合に Command Workstation でジョブを一時停止するかどうかを設定できます。

- キャリブレーションの「環境設定」ダイアログボックスで、次のいずれか操作を実行します。
 - 有効期限を設定するには、時間制限を設定してジョブセンターに状況を表示するを選択して、時間（1～23 時間、または 1～200 日）を指定します。
 - ジョブの一時停止を有効にするには、キャリブレーションが期限切れの場合、印刷を一時停止するを選択します。

キャリブレーション設定

Fiery server がカラー印刷をサポートしている場合は、複数のキャリブレーション設定にアクセスできます。通常、キャリブレーション設定および出力プロファイルは、特定の用紙および印刷条件に適しています。キャリブレーション設定は、複数の出力プロファイルに関連付けることができます。

特定の出力プロファイルに関連付けられているキャリブレーション設定を確認するには、Command WorkStation のプロファイル設定を確認してください。

キャリブレーション設定の測定データを表示する

特定のキャリブレーション設定でキャリブレーションを行うと、測定データが保存されます。測定データは、キャリブレーションターゲットデータと共にグラフに表示することができます。それによって、測定したプリンター出力とキャリブレーションターゲットの一致の程度を確認できます。

- 1 Command WorkStation で、サーバー、> デバイスセンターを順にクリックします。
- 2 一般で、ツール、続いてキャリブレーターをクリックします。
- 3 キャリブレーターで、キャリブレーションマネージャーを開きます。
- 4 キャリブレーション設定をクリックして選択します。
- 5 測定値の表示 をクリックします。

キャリブレーションターゲットを編集する

特定のキャリブレーション設定に関連付けられているキャリブレーションターゲットの最大濃度（D-Max 値）は、キャリブレーション設定の作成時に編集できます。インク/トナー（C、M、Y、K）ごとに新しい値を入力するか、ファイルからキャリブレーションターゲットをインポートできます。

編集されたターゲットデータは、現在の測定データを適用する際に、このキャリブレーション設定に現在関連付けられているターゲットデータを上書きします。

この Fiery サーバーで使用する既存のプロファイルとキャリブレーションターゲットが別の Fiery サーバーにある場合は、ファイルからターゲットデータをインポートします。ただし、最良の結果を得るには、この Fiery サーバーおよびそのプリンター専用で作成したプロファイルとキャリブレーションデータを使用します。

最大濃度値は編集できますが、編集の際は注意が必要です。キャリブレーションターゲットはキャリブレーションの理想的な値を表しており、不必要に変更しないでください。

- 1 新しいキャリブレーション設定のキャリブレーションページを正常に測定できたら、測定値の表示をクリックします。
- 2 次のいずれかを行います。
 - ターゲットに D-Max 値の新しい値を入力します。
 - ターゲットインポートをクリックし、ファイルの場所を参照してファイルを選択し、開くをクリックします。
単調な測定値を含んだファイルのみ、インポートされたターゲットとして許容されます。
- 3 キャリブレーション設定の作成を続行します。

再キャリブレーション

Fiery server のキャリブレーションデータが得られたら、いつでも再キャリブレーションを実行できます。既存のキャリブレーションは、このキャリブレーションの作成時に Fiery server 用に生成されたカラーベンチマークに一致するようにアップデートされます。

- 1 開始 キャリブレーション。
- 2 キャリブレーションを Fiery Color Profiler Suite から開始した場合は、タスクの選択ウィンドウで Fiery サーバーの選択をクリックし、リストから Fiery server を選択します。Fiery server が一覧にない場合は、プラス記号をクリックして、IP アドレスまたは DNS 名を使用するか検索してサーバーを追加します。
- 3 次のいずれかのタスクを選択します。
 - 再キャリブレーション：選択したキャリブレーション設定でキャリブレーションを更新します。
 - キャリブレーションを作成：Fiery server 上でのカラー動作または新しい印刷条件を定義する新しいキャリブレーションおよびプロファイルを作成します。
- 4 次へをクリックします。

サーバーのキャリブレーションのアップデート

再キャリブレーションを行うには、以前に保存したキャリブレーションデータを使用して開始します。

- 1 一覧から既存のキャリブレーションセットを選択します。

選択したキャリブレーションに基づいて、カラーモードが表示されます。カラーモードが表示されていない場合、キャリブレーションを行ったプリンターではサポートされていません。

表示されるコメントはキャリブレーションが作成されたときに追加されたものです。
- 2 オプション：次へボタンの横にある下矢印を選択し、ファイルから測定値をロードを選択すると、印刷および測定ワークフローを省略できます。このオプションは、プリンターの測定値をすでに持っている上級ユーザー向けのものです。必ず実際のプリンターで印刷して測定することをお勧めします。
- 3 次へをクリックします。

測定用のキャリブレーションページを印刷する

再キャリブレーション用にキャリブレーションページを印刷する場合は、測定方法、パッチセット、給紙方法を指定します。

メモ：分光測色計をキャリブレーションして、キャリブレーションページの測定準備を行います。

1 パッチレイアウトウィンドウで、以下のオプションを設定します。

- 測定方法リストから測定器を選択します。
- パッチセットリストからパッチセットを選択します。
- 給紙方法リストから目的の給紙方法を選択します。

メモ：給紙方法には、キャリブレーション設定に適した用紙が選択されていることを確認してください。給紙方法の設定で警告が表示された場合は、給紙方法がキャリブレーション設定に適合していない可能性があります。別のキャリブレーション設定を選択するか、別の給紙方法を選択することができます。

2 次へをクリックし、測定に進みます。

画面の指示に従って、キャリブレーションページを測定します。

キャリブレーション結果を表示する

新しいキャリブレーションでは、各再キャリブレーションで達成しようとしている基本色の状態である「ターゲット」が生成されます。

ターゲットとは、定義した印刷条件（用紙、解像度、ハーフトーンなど）に正しくキャリブレーションされている場合にプリンターで期待されるカラー出力です。プリンターを正しくカラー管理するために、サーバーではこのキャリブレーションされた状態で作成された色空間を説明する出力プロファイルが必要です。キャリブレーションに満足していない場合は、前の手順を確認します。

再キャリブレーションする場合は、指定されたキャリブレーション設定の元のターゲットをプリンターがまだ実行しているかを、再キャリブレーションの結果で確認するようにします。

メモ：ファイルから測定値をロードを使用する場合は、表示されるオプションが少なくなります。

- 1 印刷テストをクリックします。テストページを印刷すると、現在のキャリブレーション設定を使用するか、新しい設定を作成するかを判断するうえで役に立ちます。
- 2 オプション：印刷テストの横の下矢印を選択し、デフォルトキャリブレーションを使用を選択して、比較のためにデフォルト測定値を使用して印刷テストを行います。
- 3 次のいずれかを行います。
 - 適用/閉じる をクリックして、キャリブレーション設定を保存します。
 - キャンセル をクリックして、再キャリブレーションをキャンセルします。このアクションを実行すると、キャリブレーション設定は更新されません。

キャリブレーションマネージャー

キャリブレーションマネージャーでは、キャリブレーション設定の表示および削除を行うことができます。個々のキャリブレーションでコメントの追加または削除ができます。

通常、キャリブレーション設定および出力プロファイルは特定の用紙および印刷条件に適したものになっています。キャリブレーション設定は、複数の出力プロファイルに関連付けることができます。

ウィンドウの左下隅にある  をクリックして、キャリブレーションからキャリブレーションマネージャーを開きます。選択されたサーバーのすべてのキャリブレーションがウィンドウに表示されます。次のカテゴリが表示されます。

- **キャリブレーション設定**：サーバー内の完了したキャリブレーションの名前別一覧表。
- **最終キャリブレーション日時**：最後にキャリブレーションを行った日時。

一覧で選択したキャリブレーションで、いくつかの操作を実行できます。キャリブレーションによっては、使用できない操作もあります。ある操作が使用できない場合は、グレー表示になります。次のような操作があります。

- **編集カスタムキャリブレーション設定の基本的な情報を編集するウィンドウを開きます。**
- **測定値の表示強調表示されたキャリブレーションの詳細を表示するウィンドウを開きます。**
このウィンドウに表示される情報は、測定空間で決まります。
- **削除選択したキャリブレーションセットを除去します。**
このキャリブレーションの影響を受けるプロファイルも、オペレーターが確認した後に削除されます。普通紙などの工場出荷時のキャリブレーションセットは削除できません。

キャリブレーション設定を編集する

カスタムキャリブレーション設定の基本的な情報を編集できます。工場出荷時に提供されたキャリブレーション設定は編集できません。

カスタムキャリブレーション設定を編集するには、システム管理者権限が必要です。

キャリブレーション設定と一緒に保存された測定データは無効になるため、ジョブのプロパティ（印刷設定）は編集できません。キャリブレーション設定のジョブプロパティを編集するには、既存の設定に基づいて新しいキャリブレーション設定を作成します。

- 1 **キャリブレーションマネージャーで、一覧からキャリブレーション設定を選択し、編集をクリックします。**
- 2 **以下の設定を指定します。**
 - **名前** - 用紙名、坪量、用紙の種類のほか特定の印刷条件（ハーフトーン、グロス設定など）もわかるような名前を入力します。名前は 70 文字まで入力できます。
 - **コメント** - （オプション）追加の説明情報を入力します。この情報は、Fiery server で使用可能なキャリブレーション設定の一覧に表示されます。

測定結果の表示

キャリブレーションページの測定または測定値のインポートが完了したら、測定結果をいつでも適用することができます。測定データを適用（保存）すると、既存のデータは上書きされます。カラーデータの場合は、測定データをグラフに表示して、適用する前にデータを確認することができます。

測定結果は、C、M、Y、K の濃度曲線のセットとして表示されます。同じグラフに、比較のためにキャリブレーションターゲットデータが太線の濃度曲線のセットとして表示され、最大濃度値が数値的に比較されます。

- 1 キャリブレーションマネージャーで、キャリブレーションを選択し、測定値の表示をクリックします。
- 2 曲線を表示または非表示にするには、 該当するラベルの横のアイコンをクリックします。
 - 測定値 - 測定濃度曲線を表示または非表示にします。
 - ターゲット - ターゲット濃度曲線を表示または非表示にします。
 - シアン、マゼンタ、イエロー、またはブラック - 特定のインク/トナーの測定濃度曲線とターゲット濃度曲線を表示または非表示にします。

メモ： Fiery Color Profiler Suite がインストールされライセンスされている場合は、キャリブレーターで G7 キャリブレーションを作成することもできます。G7 キャリブレーションでは、G7 グレーバランスに到達するためにトランスファー曲線が Fiery サーバーのキャリブレーションターゲットに適用されます。キャリブレーションマネージャーは、一時的な G7 のトランスファー曲線ではなく、基本となる標準的な Fiery サーバーのキャリブレーションターゲットを表示します。同様に、標準的な Fiery サーバーのターゲットにとってキャリブレーションされた状態に到達するのに使用されるトランスファー曲線は、キャリブレーションマネージャーでは表示されません。これらのトランスファー曲線は、再キャリブレーションのたびに再計算されるので、一時的なものです。

- 3 オプション：測定値の保存 をクリックして、既存のキャリブレーション設定の測定データを保存します。
- 4 テストページを印刷するには、テストページをクリックします。

テストページを印刷すると、キャリブレーション設定を既存の出力プロファイルに関連付けるか、新しい出力プロファイルを作成するかを判断するうえで役に立ちます。
- 5 オプション：最新の測定結果で得られた結果が満足のいくものでない場合は、デフォルト測定値にリセットをクリックして、キャリブレーションデータをリセットします。このアクションを実行すると、キャリブレーター測定値の最後のセットが削除されます。このボタンは、再キャリブレーションを実行した場合にのみ表示されます。